

「京都府中期的な医療費の推移に関する見通し」

策定等懇話会（第4期第2回）議事録

- 1 日時 令和5年10月17日（火） 14時～16時
- 2 場所 京都経済センター 6-B会議室
- 3 出席者 渡辺委員、後藤委員、浜田委員、濱島委員、鈴木委員、
河野委員、田中委員、安井委員、土淵委員、今中委員、桂委員
- 4 内容 ※「⇒」は事務局発言

【主な発言】

全般

- ・身体を鍛えることなど、医療等に頼らずにすむ健康づくりを自ら行うことの重要性について府民にしっかり啓発を行うべき。
- ・現状分析と比べて課題の記載が少ないため、課題の記載を充実してはどうか。
- ・本見通しは府民を対象とするものでもあるため、わかりやすい表記や用語説明の追加などの工夫をしてはどうか。
- ・府民の保険料への関心は高いと考えられるので、自分の保険料について理解が進むように記載を工夫してはどうか。

特定健診・特定保健指導

- ・特定健診の実施率は除外対象者数、特定保健指導の実施率は特定健診受診者数の影響を受けるため、他府県との比較に当たっては考慮が必要である。
- ・特定健診を含め健（検）診の重要性は増しており、受診率向上の取組みは重要であるので、京都府でしっかり取り組んでいただきたい。

歯科・口腔保健

- ・歯の健康は重要であり市民としても歯周病がいろいろな病気を引き起こすことを聞くので、歯の健康の重要性についてもっと記載してはどうか。
- ・歯周病以外の歯科・口腔疾患も生活習慣病などの疾病に関係しており、歯科・口腔保健に係る取組推進が重要である。
- ・歯科検診の状況についても現況に記載してはどうか。

生活習慣病

- ・糖尿病性腎症は重点的に取組が進められているが、高血圧が相対的に軽視されるようになってきた印象がある。市町村によっては今も課題となっており、見通しへの記載を考慮してはどうか。

保健事業と介護予防の一体的実施

- ・市町村は一体的実施に一生懸命取り組んでいるが、中身の充実が進んでいない市町村もあるため、課題として見通しに記載することで具体的支援につながればよい。

後発医薬品・バイオ後続品（バイオシミラー）

- ・後発医薬品の目標設定を行う予定はあるか。（⇒ 現在検討中である。）
- ・バイオシミラーについては先行品と比較して適応症が少ないものもあり、使用割合を示す際は誤解のないように記載する必要がある。

医療資源の効果的・効率的な活用

- ・医療資源が豊富であれば医療費が高くなる。府民にとって医療費が高いことがよいことなのか、低いことがよいことなのかは難しい問題である。
- ・白内障手術や化学療法については入院よりも外来の医療費が低いですが、外来実施率を向上させることが患者にとってよいこととは限らないのではないかと。
- ・国がなぜ白内障や化学療法の外来実施率の地域差を問題視しているのかをはっきりさせた上で方向性を考えるべき。
- ・抗菌薬使用については患者状況に加えて地域事情に基づく要素もあり、単純に地域差の解消を目的とすることは疑問。

その他（療養費の適正化）

- ・はり、きゅう、あん摩等の療養費に関して、病気や部位を変えて頻回の施術を受けることが問題となっている。適切な給付となるようしっかり審査することが必要である。